

音読指導の盲点を踏まえた実践例

鈴木 政浩（西武文理大学教員）



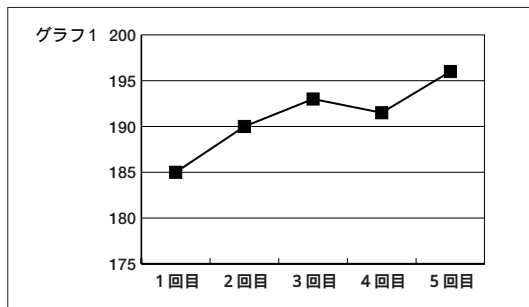
はじめに

授業で念入りに音読指導をしたのに、次の授業では元に戻っている。音読指導にこうした無力感を覚える先生も多いのではないだろうか。これまでの文献では、その原因を生徒の怠慢と決めつけることが多かったように思われる。しかし、ここ数年にわたり学生の音読データを概観してみても必ずしもそれが生徒の責任とも言い切れないことに気づいた。本稿では、音読指導に潜む盲点を光を当てるとともに、海外の文献などからヒントを得た音読指導の実践事例をいくつか紹介したい。



音読における繰り返し読みと自己補正能力

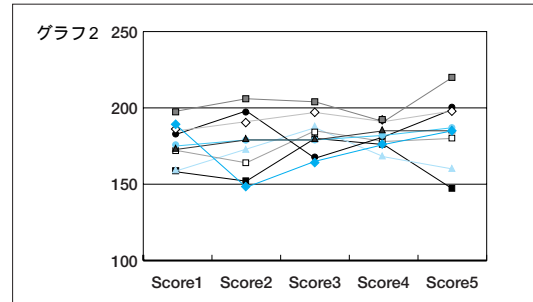
まず最初に、下のグラフを見ていただきたい。



グラフ1は、同じテキスト（英検準2級リスニングテスト問題、65words）を繰り返し読み、スコアの平均がどう変化したかを記録したデータである。5回練習して音読の点数を付けるという取り組みを5回繰り返した結果、スコアは練習するほど伸びているのがわかる。ところが、平均の推移とは異なる学生が存在していたのである。

グラフ2を見ると練習を重ねても得点は伸びず、上下を繰り返していることがわかる。いくら

練習してもうまくならないのである。



これらの学生の取り組みを観察したが、一生懸命練習している。単語の発音はいつでも聞けるようになっているので、学生はそのつど発音を確認しながら練習をしている。

モデル音声を聞いても自分の発音を矯正できない学生が確実にクラスに数名はいる。音読における自己補正能力が低く、これが学力形成のネックになっているということである。こうした学生は、引っかかる単語が多い上に、同じ単語に何度も引っかかっている。だからある単語を練習して発音できるようになっても、別の単語に集中すると、前に覚えた単語の発音が元に戻ってしまう。

音読指導では、同じテキストを何度も繰り返し音読することにより、語彙や内容理解が徐々に深まるという意識が大切である。しかし、繰り返し読みが効果を発揮するテキストは、含まれる語彙の90%から95%の単語は、つづりを見たらすぐ発音できる状態になければならないという。

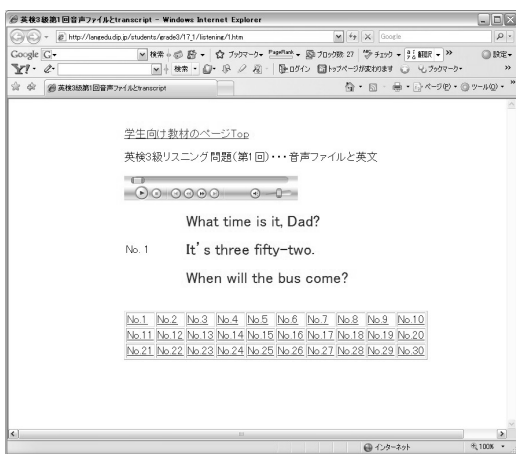
取り上げるテキストが繰り返し読みに使えるかどうかは、テキストエディタやワープロソフトを使って単語リストを作り、即座に発音できない単語がどの程度あるかを確認すればよい。学年や学期の始めに教科書の既習ページを使い、単語リストの音読テストを実施する。自己補正能力の低い学生を洗い出し、個別指導の見通しを立てる。

プロソディーの育成

繰り返し音読は、文字を自動的に音声化することにより、語彙の記憶や内容理解に意識を集中するためリーディングに効果があると言われている。同様に音読はリスニングにも効果があると言われるが、これは音読することによりイントネーションやストレス、音変化などのプロソディーに関わる能力がつくためであると言われている。

音読によりリスニングの能力を伸ばすためには、ある程度の速度で読めるような練習をする必要がある。手軽な方法としては、単文を一息で3回ないし5回繰り返して読む。慣れてきたら2文、3文を一息で読むという活動でもよい。まとまった量の英文を5分間繰り返し読み続け、読めた総語数を数えてもよい。

学校内のサーバーを使い、ホームページを活用することのできる環境であれば、問題集に添付してあるCDから音声データを吸出し、ホームページに埋め込む。



学内サーバーを使った英検練習用ホームページ

テキストを見ながら音声の速度に合わせて音読をさせる。これは生徒が独自に取り組めるので、自習の形式で取り組ませることが可能である。読めるようになったら手を上げさせ、実際に音声に合わせて読んでもらう。進度表を作って、合格したらハンコやシールを貼ってあげるなどすると大学生でも喜々として取り組んでいる。

英語II 取組点検表										
Student Number		Name								
リスニングの音読										
No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	
No.11	No.12	No.13	No.14	No.15	No.16	No.17	No.18	No.19	No.20	
No.21	No.22	No.23	No.24	No.25	No.26	No.27	No.28	No.29	No.30	
リスニングのシャドーイング										
No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	
No.11	No.12	No.13	No.14	No.15	No.16	No.17	No.18	No.19	No.20	
No.21	No.22	No.23	No.24	No.25	No.26	No.27	No.28	No.29	No.30	

エクセルで作成した進度表

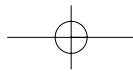
このとき、自己補正能力の低い学生はいつまでたっても先に進むことができないので、この時点でも個別指導が必要となることを頭に入れながら指導することが必要だ。適宜音変化の指導もするが、大方の学生は音声をそのまま真似して But I ... を [バライ] などと読むようになるので、このように自力でできるようになった点はすかさずほめてあげる。

相棒読み

大学生くらいになると、全体でのコーラスや個別の音読発表には抵抗が少なくなるが、中学2年生から高校生くらいにかけては、周りの目を気するため音読をいやがることが多いので、できるだけ小さなグループ、もしくはペアで取り組むと授業に活気が出る。そこで活用したいのが相棒読みである。

これは、ペアを組み、教科書もしくはプリントをシェアする。じゃんけんて勝ったほうの生徒は鉛筆を持ち、パートナーが音読する単語を順に指し示してあげるというシンプルな活動だ。シンプルただけに応用が利く。

- 1) 教科書の単語を指し示し、瞬時に発音できない単語に線を引いてもらう。
- 2) 音読しながらつかえたり、練習の必要な単語に線を引いてもらう。こうしておけば、生徒の教科書やプリントをみれば、どの生徒がどの程度発音に問題があるかがわかる。
- 3) 読む生徒に速度を決めて読ませる。鉛筆を持っているほうの生徒は、相手の自己申告に応じて



鉛筆を動かす速さを調節する。「もっと速く!」「速過ぎ!」という言葉が飛び交うのが楽しい。記録表やコメント表などを配り、パートナーの評価を書かせるなどする。取組の初期はできるだけ肯定的なコメントをもらって自信をつけさせる。評価項目はあらかじめ入れて込んで置き、丸をつけさせ

初期のコメント表(例)

DATE	読む速度	パートナーからのコメント	パートナー氏名
/	ゆっくり・ふつう・速い	1. 声がかわいいい・しづい 2. 大きな声で読めた 3. 強弱がはっきりしていた 4. 気持ちがこもっていた 5. 真剣に取り組んでいた 6. () などがよかった	

ある程度取組に慣れてきた場合のコメント表(例)

DATE	読む速度	パートナーからのコメント	パートナー氏名
/	ゆっくり・ふつう・速い		

るなどしてもよい。活動に慣れてきたら相手の発音をよく聞くようにするため、記述式にするなど時期によって使い分ける。

導入に際しては、各自音読練習をさせている間に教師が教室を歩き回り、実際に鉛筆を持って相棒読みをやってあげるとよい。そうすればペアを組むときにはすでに取り組み方がわかっているのでスムーズに相棒読みに移ることができる。



録音とオーディエンス

音読にはオーディエンスは欠かせない存在である。友だちに聞かせるという明確な目的があることで、緊張度が高まる。

人前で音読するのは抵抗があれば、別室で生徒の音読を録音する。録音した音声は授業の導入で流して生徒に評価させる。意外と友だちの音読は上手であるという錯覚を起こすため、評価は高くなる傾向があり、これが自信につながる。

次のような場面を設定すると臨場感が増し、音読する側も聞く側も目標がはっきりする。

1. 洋画とBGMを使ったなりきり音読

洋画のモノローグシーンを音読させる。生徒の音読の横でラジカセからサウンドトラックを流して録音すると、あたかも映画のワンシーンのように聞こえる。ビデオの編集技術があれば、映画の音声をイヤホンなどで聴きながら録音させ、これを映画の音声と入れ替えた動画を作る。映画の俳優になりきった音読活動である。

2. アナウンサー音読

簡単なニュースの transcript を用意し、これを音読教材にする。海外のニュース番組に流れるオープニングの効果音を録音し、これが終わったら音読を開始。効果音と合わせて録音すればラジオのアナウンサーになりきって音読に取り組むことができる。少し離れたところにカンペを置いてそれを読み上げる場面をビデオに収録してもよい。

3. 洋楽の歌詞読み上げ音読

カラオケや歌を抜いたCDをBGMにして、洋楽の歌詞を読み上げる。中には歌ってしまう生徒もいたりする。



パソコンソフトを使って

パソコンソフトには音読指導の強力な味方になってくれるものがある。ライトハウス社 (<http://www.lighthouse-inc.com/>) の提供する SpeaK! がそれである。好みのテキストを貼り付ければ、ソフトが英文を読み上げてくれる。単語ごとの音声を確認できるばかりでなく、単語の意味を表示する。さらに録音機能を使用することにより、生徒の音声を録音し、音読能力を採点してくれるすぐれものである。冒頭に述べた繰り返し読みの点数は、このソフトを使って計算したものである。カラオケの得点よろしく、学生たちは毎時間 SpeaK! を活用して音読練習に取り組んでいる。

鈴木先生のホームページ：<http://langedu.dip.jp/>
音読指導研究会のホームページ：<http://langedu.dip.jp/or/>

